

* * イ カ ナ ゴ 情 報 No. 4 * *

後志南部地区水産技術普及指導所
北海道立中央水産試験場

2007年5月23日に、これまでに採集していただいた漁獲物標本を指導所に持ち寄り、島牧、寿都の漁協と役場の皆様、指導所職員、水試職員で体長測定を実施しました。今年の資源状況と終漁時期の見通しが出ましたので、お知らせします。

- ・ 3つの群が段階的に加入して漁場を形成
- ・ 現在の漁獲主体は2群目、後続の3群目は薄い模様

4月30日から5月23日の期間に、寿都、島牧に水揚げされた漁獲物から33標本を採集し、それぞれ100～160尾程度を測定しました。下の図に示すとおり、各標本の体長組成のモード（採集数が特に多かった体長）を追跡しました。

今年は、今までのところ大きくみて3つの群が段階的に資源に加入し、漁場が形成されたようです。まず、4月の漁期前調査と島牧の初漁調査結果（イカナゴ情報No. 1とNo. 2）でお知らせしたように、4月末頃から*印で示した群が初漁期の主体となりました。つぎに、ゴールデンウィーク明け頃から◆印で示す2群目が適正サイズに達し、盛漁期の主体となりました。これは、4月26日の島牧の初漁標本に15～17mmの小型群として現れていたもので、イカナゴ情報No. 3でお知らせしたとおりです。さらに、5月中旬以降には●印で示した3群目も加入していますが、全体の組成の中に占める割合は小さいようでした。なお、今後、新たに加入してくるような小型群は見られませんでした。

現在獲れている2群目の平均サイズは、あと1週程度で40mmを超えるので、漁獲対象サイズからは徐々に外れてくる見込みです。3

群目の資源規模については、はっきりとは判りませんが、今現在の漁獲物に体長25mm前後の個体がさほど見られていなければ、2群目主体のまま終盤を向かえることになりそうです。

図 体長組成のモードの変化

